

平成29年度校務分掌及び学年会の自己点検評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>1 安心安全な学校環境作り 2 学力向上をめざす 3 高大連携ver. 2.0の模索と実現</p>		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>留意事項</p>
<p>教務部</p>	<p>①授業時間の確保及び授業内容の充実 ②教育研究の推進及び情報提供 ③入試業務の改善及び検討</p>	<p>①授業時間を確保できるよう分掌・学年と連携して計画を作成する。 ②教科主任会・職員会で、各教科の取り組み等をまとめ情報共有し、学校説明会で情報発信していく。また、授業参観期間を設けて、授業についての情報交換の機会を増やす。 ③入試業務の見直しを行い、業務の正確性を一層高めるとともに効率化と迅速化に努める。</p>	<p>①学校行事の検討や精選を行っていく必要がある。 ②教育研究や授業内容が、全職員で共有ができるよう定期的に話題提供していく必要がある。 ③昨年度までの反省や中学校からの意見を参考にして、入試業務を改善していく。</p>
<p>生徒指導部</p>	<p>①遅刻のさらなる減少 ②整った身だしなみ ③授業規律の確立 ④登下校時における安心安全確保とマナー向上 ⑤生徒会活動の活性化 ⑥携帯電話やインターネットの使用上のルール徹底とマナー向上</p>	<p>①チャレンジ300(遅刻指数0.5)を掲げ、学年や養護教諭と連携しながら指導を行う。また、全職員で登校指導を年間複数回行う。 ②月一回の身だしなみ指導と日頃の指導を行う。 ③教務部と連携し、全教員で指導する。 ④講話や交通安全教室を行うとともに、生徒の安全に対する意識やマナー遵守の意識を高める。 ⑤部活動や碧海野祭、クラスマッチ等の充実を図る。 ⑥生徒指導部通信や掲示物を通して生徒のモラル向上を図る。</p>	<p>①出欠統計を作成し、前年度の傾向も踏まえ対策を練る。また、全学年、全職員が遅刻欠席の推移についても認識を持って指導にあたることができるようにする。 ②各学年で身だしなみの基準を統一し、日頃から継続的な指導に努める。 ③携帯電話の使用に関する指導、不要物の持ち込みに関する指導を徹底する。 ④生徒の通学地域に該当する不審者情報はその都度プリント配布をするとともに、緊急性の高い情報は必ずネットを活用して注意喚起を図る。 ⑤体育祭、文化祭を碧海野祭としたことで一層の行事の充実を図るようにする。また、生徒会や委員会の生徒の主体性を生かした取り組みを行う。 ⑥インターネットやSNSの危険性、その他日常生活での道徳心やモラル向上のための啓蒙活動を行う。</p>
<p>校務部</p>	<p>①PTA活動の充実と後援会との連携 ②卒業式を始めとする式典の円滑な実施 ③教育実習の充実 ④国際交流活動の充実</p>	<p>①役員会、各種委員会の資料を事前に配付する体制を作り、会議の充実と円滑な実施を図る。 ②昨年度までの資料を参考に、特に卒業式については早い段階で準備に取りかかる。 ③職員反省アンケートを実施し、次回以降の改善に活かす。また、今年度から始まる愛知教育大学の「初年次学校体験活動」の受け入れ体制を構築する。 ④アイバンホー・グラマースクールとの交換留学では現地にWiFiルーターを持参し、現地からの情報をホームページに掲載し、成果の還元を図る。また、昨年度に引き続き、難民の方々を支援する「届けよう服のチカラ」プロジェクトに参加する。</p>	<p>①会議前後の時間も有効に活用して、役員・学級委員の方々の意見を汲み取ることができるようにする。 ②特定の職員に負担が偏ることのないように役割分担をする。また、次年時以降への引き継ぎにも配慮する。 ③校長を通じて、愛知教育大学と円滑に連携を取る。 ④参加生徒には、学校代表として派遣されるという意識を高められるよう、事前指導を充実させる。「届けよう服のチカラ」プロジェクトでは生徒会とも連携し、学校全体で活動できるようにする。</p>
<p>進路指導部</p>	<p>①進路意識の高揚 ②補習、模擬試験の効果的運用 ③進路情報の整理と適切な提供</p>	<p>①総合学習や「出前講義」などの機会を活用し、生徒が主体的に進路を選択し、その実現に向けてに努力できるようにする。 ②3年生は通年で補習(始業前・放課後・長期休業中)を実施し、学力向上のための指導を行う。夏期休業中には第1・2学年でも補習を実施する。また模擬試験では事前、事後指導も含めて、積極的な参加を促す。結果は職員にも周知し、進路指導・授業等で活かしていただく。 ③進路室および掲示板の資料を整理し、生徒、教員ともに進路情報にアクセスしやすいようにする。また学年団とも相談の上、時期に応じて適切に進路情報を提供する。</p>	<p>①進路決定、学習活動について、生徒が主体的に考えて取り組んでいくようにする。 ②各学年の実情に応じ、効率的に指導を行えるように条件整備をする。 ③生徒が自ら進路情報にアクセスし、正しい情報に基づいた適切な進路決定を行うことができるようにする。</p>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
研究部	<ul style="list-style-type: none"> ①ユネスコスクール、及び「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」の積極的な活動に努める ②シンポジウムの活性化 ③高大連携教育システムの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①ユネスコスクールとしての活動も、「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」の活動も、一部の活動では無く、全学的な取り組みとなるように体制を整える。 ②現在の本校の教育課題を教員間で共有し、今後のシンポジウムのテーマ、各教科での取り組みの在り方などを検討する。 ③第二期を迎えた本連携の発展のため、愛知教育大学へ進学した生徒が成果を残すことができるよう、一層の働きかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①本年度が最終年度となるので、教員間での情報共有を滞りなく行い、将来に繋がる体制作りを努める。 ②全体の取り組みとなるよう、問題共有に努める。 ③先輩から後輩へと知識や経験が伝達できるようにする。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ①健康観察、健康相談及び保健指導の充実 ②身の回りの環境への意識の向上と積極的な校内美化への取り組み ③学校内外での総合的な「安全」についての意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①担任による毎日の健康観察、保健室の来室記録などの情報を学年主任会等を通じて共有し、共通理解の元で生徒の指導に取り組む。 ②「クリーンアップ」活動では、できるだけ生徒の発案を生かし、生徒が主体的に美化活動に取り組むようにする。また、期間中の保健委員による反省を教員全体で共有する。 ③校内は安全点検、避難訓練を通じて危険箇所の早期の把握を行い、緊急時の対応の迅速化を図る。校外については、防犯ブザーの配付、点検を通じて、また、海抜表示を行い安全意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の個人情報や固有の事情について、十分に配慮する。また、配慮すべき事項については、関係者が正確に把握できるようにする。 ②「クリーンアップ」活動がマンネリ化しないよう、毎回の重点項目を決めて全校生徒に周知する。 ③登下校時の安全については、特に生徒指導部との連携を密にし、生徒が被害者とならないための防犯意識の向上を常に心がける。
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎・基本の徹底。コミュニケーション、学習、生活習慣の3つを柱として、人として成長するための土台を作る。 ②附属高校に夢中になる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①挨拶と同様に身だしなみが与える印象も指導を通して理解させる。授業の大切さと、予習・復習が授業の質を高めることを感じ取らせる。出席をすることで良いリズムができていくことを認識させる。 ②学習、部活動、生徒会活動などを通して、自分の目標を見つけ、それに向かわせる機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎基本を大切にして、コツコツと努力できる人が大きく成長できることを何度も伝えていく。 ②目標を達成できなかつたり、上手く向かえていないときにサポートできる環境を作っておく。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人一人が安定した生活習慣を身につけ、豊かな人間性を養うことができる。 ②充実した家庭学習(2時間以上/日)の定着に向け、適切な指導・支援をする。 ③全体の基礎学力を保障しつつ、中・上位層を引き上げる指導体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年に引き続き、毎日の生活記録のやりとりを通して、担任・副担任が生徒の生活と学習の状況を把握しつつ、必要に応じて助言指導する。 ②生活記録の学習時間と時間的リスクに注目して個別の指導を行いつつ、学年集会やLTを通して、個別の進路目標を明確にする進路指導を行う。 ③定期考査や模擬試験等の結果から学力層の分布状況を確認し、週課題以外にも、学力に応じた添削個別指導などを計画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生活記録の提出を習慣づけることが前提となることから、学校生活のいっどこで記入する時間を確保するのが明確にしておく必要がある。 ②本人の進路実現に向けた強い意思がスタートになり、学習時間を確保しようとする意識付けができるよう、保護者会や面談等で指導助言する。 ③個別指導が中上位指導に偏ることがないように、全体の基礎学力の保障を第一とし、その上で、教科間でバランスを調整しながら実施する。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ①進路目標の設定に関わる指導 ②大学進学に向けた学力の養成 ③3年生に相応した姿勢の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ①模擬試験等を上手く活用し、自身の適性や学力を客観的に受け止めながら、具体的な進路目標を決めさせる。 ②授業を中心とした学習リズムを維持する中で、大学受験に向けた実践的学力を伸ばす。 ③部活動や学校行事等を通して、最上級生として後輩たちに伝え残せるものを模索させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路情報を学年で共有し、広い視野の中で自己実現に向けた進路決定ができるよう助言する。 ②大学受験を意識した学習に止まらず、進学後につながる幅広い教養と知的探究心を育む授業を心掛ける。 ③球技大会、碧海野祭における「縦割り」の活動を通して、下級生を牽引する態度を促す。